



TITLE:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第3巻第4号) 編集後記・購読要項・投稿内規

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第3巻第4号) 編集後記・購読要項・投稿内規
. 泌尿器科紀要 1957, 3(4): 298-298

ISSUE DATE:

1957-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111435>

RIGHT:

泌尿器科紀要

第 3 卷 第 4 号

昭和 32 年 4 月

随想 第46回日本泌尿器科学会総会開催地が熊本に決って	檜 原 憲 章	245
泌尿性器疾患に於ける Phosphatase の組織化学的研究		
第Ⅲ篇 尿路腫瘍並びに前立腺肥大症組織に於ける Phosphatase	三 浦 武 芳	247
睪丸腫瘍の組織発生論について	酒 徳 治 三 郎・ト 部 敏 人・三 浦 武 芳	261
アミノ酸酸化アポ酵素と人腎臓に就いて	馬 場 正 次	266
腎異常血管に就いて	松 浦 省 三・田 中 利 則	269
腎盂アミロイド沈着症の1例	佐 藤 昭 太 郎	275
恥骨骨折片を核とせる膀胱結石の症例	安 藤 真 名・山 田 瑞 穂	279
先天性単一腎の4例	日 野 豪・麻 生 田 幸 雄	283
腎に於ける Hemangioblastoma の1例	八 田 栄 造・三 浦 武 芳	288
学会抄録 第48回近畿集談会		292
編集後記・購読要項・投稿内規		298

Histochemical Studies on Phosphatase in Genito-Urinary Diseases.

Report III : On Phosphatase in Genito-Urinary Tumors and Prostatic

Hypertrophy.	T. Miura	247
Histogenesis of Testicular Tumors.	J. Sakatoku, T. Urabe and T. Miura	261
Studies on Apoenzyme of Human Kidney.	M. Baba	266
On the Abnormal Blood Vessels in Kidney.	S. Matsuura and T. Tanaka	269
Primary Amyloidosis of the Renal Pelvis : Report of a Case.	S. Sato	275
Un Cas du Calcul Vesical Dont de Noyau est un Morceau du Pubis.		
	M. Ando et M. Yamada	279
4 Case of Congenital Solitary Kidney	T. Hino and S. Asoda	283
A Case of Hemangioblastoma in the Kidney	E. Hachida and T. Miura	288
Society Transaction.		292

編集後記

大阪大学助教授今北博士は3月8日逝去せられた。謹んで哀悼の意を表する。



新潟医学会雑誌に中田瑞穂教授が“外科手術に就て”と題して詳しい記述を載せていられる。多年の経験から得られた信念を卒直に飾り気なく謙虚に述べていられるのを読んで深く感銘した。茲にその一部を抄録して他山の石としたい。

「手術の前には先ず診断を正しく精密にすること。之には各方面の知識を必要とする。他人委せにせず、すべて自分で出来れば最も良い。手術に就ては、無準備のまま、又はその手術の全体に充分な理解のないままに新しい手術にとびつかないことが大切である。早い手術、急ぐ手術、騒々しい手術はよくない。器用よりも、不器用でも強靱に、根気よく、一步一步を踏みたしかめ、僅かの間違いいさえない、馬鹿正直に見える程の合理的な、確実な手術の完成が尊い。手術死は絶対ないと保証のつけられるまで正確にやれ。中田外科の胃手術にて10年以上に亘り、1例の死亡例もない。手術の前後処置が極めて大切であり、術後はいつまでも患者の状態に関心を持っているべきである」



南極探検隊の11名が宗谷丸から離れて昭和基地に1年間の滞留をする。その心境とその労苦はいかばかりであろうかと推量する。それだけの覚悟と情熱があればどんな事でも成し遂げられると思える。我々は各々の戦場に於てこの心構えと努力とを以てその本分に邁進すべきであろう。それにつけても宗谷丸を氷海から救い出してくれたオビ号を持っているソ連の偉大さに色々の意味で感服せざるを得ない。現今学生に高等数学を最も多く教える国は世界中でソ連であると聞いているが、日本では昔よりも少く教えている様だ。外国語の授業時間数も我が国では以前よりも減少している。之でよいのであろうか。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部